

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 2 月 17 日作成)

小委員会名	炭素収支と資源ストック利活用技術小委員会	主 査 名：田村雅紀 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	地球環境委員会	委員長名：外岡 豊
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常時・災害時を区別し、各種建材の資源利用・維持保全・解体処理に関わる最新動向を明らかにする。 ・ ライフサイクル全体における炭素収支の視点を盛り込んだ各種建材のマテリアルバランスを評価する。 ・ 炭素収支の視点から環境保全を実現するための資源ストック利活用技術のあり方を検討する。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：田村雅紀 (工学院大学) 幹事：古賀純子 (国土技術政策総合研究所)、恒次祐子 (森林総合研究所) 委員：有馬孝礼 (東京大学)、石川嘉崇 (電源開発)、漆崎 昇 (大林組)、 越中谷光太郎 (日本建築仕上材工業会)、竹尾健一 (大成建設)、 外崎真理雄 (森林総合研究所)、中島史郎 (建築研究所)、中島裕輔 (工学院大学)、 野口貴文 (東京大学)、藤田正則 (山口大学)、山畑信博 (東北芸術工科大学)、 吉川 繁 (エックス都市研究所)、吉田倬郎 (工学院大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	HWP (伐採木材製品) WG：国内建築物に使用する木材製品による炭素固定について、評価手法ならびに建築物中 HWP による炭素固定量の推計方法を検討する。	
2014 年度予算	85,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://www.aij.or.jp/gakujutsushinko/q-000/q030-12.html

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
催し物 (自主調査)	
大会研究集会	地球環境部門 PD「災害時のレジリエンス対応技術と資源ストック利活用の接点」 参加者数 30 名 PD 資料「災害時のレジリエンス対応技術と資源ストック利活用の接点」
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 震災で発生した廃棄物の処理法を中心に各種建材利用の最新動向を整理した。また今年度は製鐵所の視察を行い、リサイクルを含めた資源利活用のあり方について議論を深めた。 2. 非常時のマテリアルバランスの観点から、都市のレジリエンス向上のために平常時にどのような資源利活用を行うべきか検討した。 3. 今後の災害に対応する資源循環技術を考慮した都市レジリエンスのあり方について議論した。 <p>以上について近畿大会における PD を開催し、成果を公表するとともに広く討論を行った。したがって目標は達成できたと考える。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>環境負荷（炭素排出）を増加させずに都市のレジリエンスを向上させる方策については未検討である。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。